

「58歳の新入社員」

陽和産業株式会社

総務部長 澤田貴彦氏



昨年8月から前任者より引継ぎを受け、労務管理者協議会でお世話になっております。今回原稿依頼のお話をいただきましたが、経験不足で労務管理者協議会については何も語る事ができませんので、新しい会社に飛び込んだ新入社員の雑感という形で寄稿させていただきます。

弊社はセメント・建材などの建設資材、建設機械、生保・損保の代理店、システム・家電の販売など多岐にわたる分野の製品・サービスを取り扱っており、「安心して豊かな人々の暮らしのために、専門力と総合力で未来を創造します」をキャッチフレーズに業務を行っております。私は令和1年7月よりお世話になっております。前職は金融機関に勤務しており、今までは「お客さま」としてお付き合いをいただいていた相手側に飛び込んだという事になります。昭和59年に社会人としてスタートし、以来、平成から令和という時代を金融機関の人間として過ごし、別世界で58歳の新入社員として悪戦苦闘している日々です。金融機関に35年間勤務していた経験が「活きる」時もあり「邪魔」になる時もあり…、そのバランスをとる事に悩みつつも「悩むだけの選択肢があるだけマシ」と勝手に割り切り日々をこなしております。

58歳の新入社員は、今でも社会人としては「やらなかったらうお化け」と戦い続けている毎日です。これは若かりし頃、目標を達成できず「できませんでした」と報告した際、先輩から「できんかった」ではなく「やらなかっただけ」やないかや? と問いかけられ、以降、悩んだり追い詰められた時に私の前にひょっこり現われる困ったお化けです。「やるべき事をやったか? いや、やり切ったか?」と問い詰めてきます…。やり切

ったつもりでも、やっぱりできていなかった時には「やらなかったらう!」と…。

総務という職種柄、さまざまな課題が目の前に現われます。時代の変化により自分の経験則が全く役に立たないばかりか、ホントに邪魔になる時もあります。ただ、「変えなければならないもの」か「変えてはいけないもの」なのかを判断し、その後の対応策を実行していくしかない、と「やらなかったらうお化け」がこちらをチラ見する視線を感じつつこなしております。

これから時代は更に変化・進化・深化していき、新しい価値観のもとで判断を迫られるようになってくると思われます。となると、「何が正解」で「何が間違い」かは判然としなくなるのではないかとともに思います。ただ、「変えなければならない」のか「変えてはいけない」のかをキーワードとして判断をしていきたいと思っています。「現状維持」は必ずしも正解ではないという事も含めて…。

58歳の新入社員はまだまだ経験も乏しく引出も足りません。日々「え?、はあ?」となる課題への対応に追われる毎日です(ひとえに自分自身の力不足によるものなのですが…)。時代の変化に対応するための情報や知識を提供していただける労務管理者協議会を頼りに、メンバーの皆様からいろいろなご教示・ご意見をいただき日々の業務をこなしていきたいと思っております。どうか今後とも末永くお付き合いいただきますようよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス対応に頭を悩ます晩冬の雑感です…。